

令和元年度 日立市総合教育会議 会議録

<u>日 時</u>	令和元年 10 月 25 日 (金) 午後 1 時から午後 3 時まで		
<u>場 所</u>	日立市役所 多目的ホール		
<u>構 成 員</u>	市長 教育長 教育長職務代理者 教育委員 教育委員 教育委員	小川 春樹 中山 俊恵 中村 雅利 上村 由美 朝日 華子 土屋 静治	
<u>関 係 者</u>	副市長 市長公室長 保健福祉部長 教育部長	吉成 日出男 鈴木 利文 鈴木 さつき 窪田 康德	
<u>説 明 員</u>	保健福祉部子ども局長(兼)子育て支援課長 保健福祉部子ども施設課長 教育委員会総務課長 教育委員会学校施設課長 教育委員会学務課長 教育委員会学務課課長 教育委員会生涯学習課長 教育委員会スポーツ振興課長 教育委員会指導課長 教育委員会指導課課長 教育委員会教育研究所長 教育委員会郷土博物館長 教育委員会記念図書館長(兼)視聴覚センター所長 教育委員会北部学校給食共同調理場長	安嶋 弘美 寺山 一男 松本 正生 石川 涉 中島 修 鈴木 伸治 庄司 和江 木下 俊雄 森山 秀一 稲田 訓子 小池 洋一 豊田 瑞穂 山田 美幸 荒川 敏明	
<u>事 務 局</u>	教育委員会総務課副参事(兼)計画財務係長 教育委員会総務課係長 教育委員会総務課主幹 教育委員会総務課主事	酒地 康彦 荒川 大輔 芳賀 秀人 永井 宏	

議 題

- (1) 日立市教育大綱の改訂について
- (2) ICT機器等を活用した教育の推進について

報道関係 2社（茨城新聞社、JWAY）

傍聴者 3名

※ 読みやすさ等を考慮し、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

会 議 の 概 要

1 開 会

教育委員会総務課長

只今から、「令和元年度 日立市総合教育会議」を開会します。本日は、3名の傍聴者がおります。

本日の議題は、「日立市教育大綱の改訂について」と「ICT機器等を活用した教育の推進について」の2件です。

それでは、会議の進行を小川市長にお願いします。

市

長

皆さんこんにちは。このところ台風15号、19号と災害が続いております。日立市としても、お互い様ということで、南房総市や館山市のほか、原子力災害の協定を結んでいる福島県の17市町村のうち、要請のあった7市町村に食料や水などの支援を行ったところでは、また、近隣では、常陸太田市や水戸市、常陸大宮市、大子町に支援をいたしました。今でも避難生活を続けておられる方々もおりますし、大変な状況になっています。

本日は、教育委員会の判断で、天候を考慮して、学校をお休みにしていただいたということで、賢明な策だったのではないかと思っているところです。

今回の会議は、令和元年度、第1回目の総合教育会議ということで、通算しますと10回目の会議となります。

これまで、皆様と「ひたちらしい教育」について意見交換を行うなど、本市の教育行政を市長部局と教育委員会が一体となって進めていくに当たって、非常に重要な場となっております。

本日の議題は、2件ございます。

1件目は、平成28年3月に策定した、日立市教育大綱の改訂について、皆様の御意見を伺うものでございます。

2件目は、新学習指導要領が、来年度から小学校で全面実施となることを踏まえまして、新たに始まるプログラミング教育など、ICT機器等を活用した教育の推進について、皆様と意見交換を進めてまいりますので、どうぞ、よろしく申し上げます。

また、9月の議会で上村先生が、教育委員に再任されました。これからも引き続きよろしくお願ひいたします。

(1) 日立市教育大綱の改訂について

市長 それでは、早速ですが議題に移ります。
初めに、「日立市教育大綱の改訂について」、教育部長から説明をお願いします。

教育部長 「日立市教育大綱の改訂について」、説明いたします。
説明は、パワーポイントを使用しますが、お手元に、パワーポイントの各シートを印刷した資料と、別冊として「日立市教育大綱(案)」をお配りしてございますので、適宜、御覧ください。

教育大綱の改訂に係る基本的な考え方です。

教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、本市の教育が目指す基本的な考え方を示す施策の大綱を市長が定めるものでございます。

現大綱は、平成 28 年に、計画期間を平成 31 年度までの、おおむね 4 年間として策定しておりますので、今回、改訂を行うものです。

改訂に当たりまして、(2)の基本理念は、現行の「確かな学びと豊かな心 未来を拓く人づくり」から、より未来に焦点を当てるため、「未来を拓く人づくり」といたしました。

一方で、(3)にありますとおり、教育の基本となる内容には、普遍性があることから、骨子については、現行の大綱を継続しております。

その上で、(4)に記載のとおり、情報機器の進歩や社会のグローバル化など、近年の教育を取り巻く環境の変化等を踏まえ、内容の一部を修正いたします。

また、(5)の計画期間は、今年度から令和 5 年度までといたします。

大綱の目標でございます。「笑顔・元気、そして未来へ」を掲げました。子どもたち一人一人の夢が、まちの未来を拓いていくことから、その子どもたちの可能性を、ひたらしさを活かした教育で、大きく伸ばし、まち全体で、子どもたちの笑顔と元気を育むことを目指すものでございます。

また、目標に加え、「家族が好き」、「学校が好き」、「ひたちが好き」の 3 つの柱を骨子として位置付けました。

まず、ひとつ目の柱、『「家族が好き』、愛情を感じながら、健やかに育つ』でございます。本市では、これまでも、きめ細やかな子育て支援に取り組んでまいりました。引き続き、安心して子育てができる環境を整え、子どもたちの健やかな心と体を育む、家庭の教育力の向上を目指してまいります。

2 つ目の柱、『「学校が好き』、なりたい自分を夢見て、主体的

に学ぶ」でございます。充実した学校生活を送るためには、学校生活が楽しいと感じることが大切でございます。

新学習指導要領は、来年度から小学校で、令和3年度からは中学校で全面実施されることを踏まえ、将来を担う子どもたちが、夢や希望をもち、グローバル化や技術革新の進む時代を生き抜くための確かな学力を育む教育を目指してまいります。

「友だちが好き」では、いじめをなくし、不登校を生まないために、お互いを認め合い、未来への夢を描くことができる子どもたちを育てることを掲げました。

また、「先生が好き」では、学校の働き方改革をはじめ、先生たちが、しっかりと子どもたちに向き合える環境を整えることを目指すものでございます。

3つ目の柱、『「ひたちが好き」、まちのいいところを発見して、未来を描こう』です。これは、海と山に恵まれた豊かな自然、歴史や伝統・文化など、日立のルーツを学ぶ郷土学習により、自分の育ったまちへの理解を深め、郷土を誇りに思う教育を目指していくものでございます。

ここまで御説明しました大綱の目標と、3つの骨子の実現を目指して、重点的に取り組む「施策の方向性」を、「学校教育」「生涯学習」「スポーツ」の分野ごとに、御覧の3つの推進テーマにまとめました。

まず、学校教育に関する推進テーマ、「いいところ発見 夢づくり」でございます。

子どもたちの自己肯定感を高めるとともに、確かな学力の育成に取り組み、家庭や地域との連携を深めながら、未来への夢を描く能力や姿勢を育てる学校教育を推進するため、施策の柱にございます、①から⑥の6つの内容に取り組んでまいります。

①確かな学力の定着と活用する力の育成では、分かりやすい授業の構築や、来年度から、順次、全面実施される新学習指導要領への対応を推進してまいります。

②子ども一人一人に寄り添う教育の推進では、いじめや不登校に対応するため、教育相談体制の充実などに取り組んでまいります。

③豊かな心と健やかな体を育む教育の充実では、郷土「日立」への誇りの育成などに取り組んでまいります。

④次代を担う力を磨き高める教育の推進では、科学学習の推進や、ICT環境の整備を進めてまいります。

⑤学習環境の充実と、地域とともにある魅力ある学校づくりでは、引き続き、学校施設の環境整備に取り組むとともに、学校運営協議会制度の導入を推進してまいります。

⑥すべての子どもたちが安全・安心に過ごせる居場所づくりでは、放課後子ども教室の設置などを推進してまいります。

2つ目、生涯学習に関する推進テーマ、「ゆたかな学び 未来につなぐ 人づくり」でございます。市民、誰もが、生涯にわたって、生き生きと過ごすことができる生涯学習を推進してまいります。

①地域や家庭における教育力の向上では、家庭教育の啓発に取り組むほか、職業探検少年団の活動を支援してまいります。

②市民の自主的な生涯学習活動への支援と環境整備では、図書館サービスの向上などに取り組んでまいります。

③多様な文化・芸術の推進では、文化財保存活用地域計画等を策定し、日立風流物や長者山遺跡をはじめとする文化財の保存と活用などに取り組んでまいります。

3つ目、スポーツに関する推進テーマ、「楽しくスポーツ 活力づくり」でございます。子どもから高齢者、障害のある方も含め、幅広い市民を対象としたスポーツを推進し、健康で生きがいを持って暮らせる、活力ある健康都市を目指してまいります。

①子どもから高齢者までスポーツに親しむ環境の充実では、市民運動公園やスポーツ広場等の施設整備を進めてまいります。

②競技力の向上とスポーツ団体等の活性化では、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの活動を支援してまいります。

③スポーツを通じた交流人口の拡大では、本市の看板イベントの一つであるさくらロードレース等の魅力向上や、スポーツ合宿の誘致をはじめとする、スポーツツーリズムの推進に取り組んでまいります。

以上の内容を踏まえまして、市長の教育への思いを、「人は一生学び続けるもの。文化や芸術、スポーツなどに親しみながら、市民一人ひとりが輝くための『教育』を応援します。」としております。

説明は、以上でございます。

市長 ありがとうございます。

私は2期目に入ったわけですが、1期目に掲げた教育大綱について、基本的なことは変わらないということで、大部分を引継いだものとなっています。

教育大綱の冒頭で述べております「笑顔・元気・そして未来へ」は、私が、2期目の市政運営の基本目標として掲げたスローガンから引用したものです。やさしさがあふれ、たくさんの笑顔が輝いて、未来に夢がふくらむ日立のまちを、皆さんと共に、力を合わせて創り上げてまいりたいと思っているところでございます。

それでは、新たな日立市教育大綱について、委員の皆様方からの御意見をいただきたいと思っております。

中村委員いかがでしょうか。

中村教育委員 先生方や教育委員会がわかりやすい授業への取組を進めてきたことで、学力向上の成果が出てきていると感じています。

また、郷土について学ぶことで郷土への誇りが生まれ、日立市に住み続けたいという思いが生まれると思うので、郷土教育を大切にしてほしいと思います。

郷土教育では、もっといいキャッチフレーズ、例えば「日立力」や他自治体で使っている「〇〇学」といったように、ネーミングを工夫することで、先生方が取組やすくなるようにしていただけるといいと思います。

それから、6ページの地域や家庭における教育力の向上という施策の柱がありますが、地域の教育力を学校に取り込めるような施策を実施していただけるといいと思います。

指導課長 学力向上についてですが、教員の指導力で、子どもたちの学びは大きく変わります。「日立の学校教育」に基づいて、授業の進め方、子どもたちの評価方法について、どの学校でも同じようにやっていただけるよう、アドバイスをしているところでございます。

学校運営協議会は、今年度、全小学校に設置するために取り組んでいただいております、間もなく全校で学校運営協議会の設置が完了します。1学期2学期は、各学校を訪問し、学校運営協議会は、学校の課題を解決するために地域の方々のご支援をいただくものということで説明をさせていただいております。

これまでも地域の方々には様々な形で学校を支援していただいております、とても心強く感じているところでございます。

また、どこの学校を訪問しても地域や保護者の方々からは、これからももっといろいろな場面で子どもたちのために協力していきたいというお言葉をいただいております。

今後もより良いシステム作りを進めていきたいと考えております。

市長 ありがとうございます。

中村委員がおっしゃったように、確かな学力の定着は、教育委員会の取組として最も大切なものではないかと思っております。これについては、さらに向上させてもらいたいと思っております。

指導課長からありましたように、先生の子どもたち一人ひとりへのアプローチが行き届いているということを知り、安心しました。

わかりやすい授業については、さらに徹底していただきたいと思っております。

郷土教育については、非常に大事なことだと思っております。市内の各駅では吉田正さんが作曲した音楽が流れていて、吉田

正音楽記念館もあります。こういったものは大切にしなければならないと思います。

ある町の高い煙突もありますが、日立市にはこれまで歩んできた歴史があります。いろいろなところを小さい頃から見てもわって学ばせることも大切だと思います。

コミュニティスクールについて、もともと日立市は、コミュニティの方々と結びつきが強いまちです。教育委員会が学校運営協議会として協力を呼びかけるのであれば、どうあるべきか、改めて各コミュニティの方々とよく話し合いながら地域にあったものにして教育の力となるようにしていただきたいと思います。

上村委員から何かございますか。

上 村 教 育 委 員

先日、ラグビーの日本代表のスクラムを見たときに日本人の少なさに驚きました。と同時にこれからは、文化・国籍を問わず、日本に貢献してくれる人をいろいろな所から引っ張ってくる社会になるのだらうと思いました。

私たちの子どもも、そういった多様性の中で生活していかなければならなくなります。

家族・学校・地域が三位一体となって初めて、多様性が進む社会で生活できる子どもが育つと思うので、そういった施策を進めていけるよう配慮していただきたいと思います。

市 長

これからは多文化共生社会になっていくわけですから、上村委員からあった、多様性が進む社会で肝になるのは、家族・学校・地域がしっかりと子どもの学びを支えていくことだと思います。

土屋委員いかがでしょうか。

土 屋 教 育 委 員

この大綱は、日立市の総合計画、教育振興基本計画を踏まえつつ、ひたちらしさを網羅したよくまとまったものだと感じています。

目標を3つの柱に掲げていて、特にシート6の「生き生きと充実して、先生が子どもたちに向き合うことができる環境を整えます。」というところは、重要な部分ではないかと感じました。

一方で、最近の報道にあるように教員間のいじめなど、一部の教員の劣化を感じているのは私だけではないのではないかと思います。

教職員の多忙化など教職員を取り巻く環境の大変さをクローズアップされた報道がされておりますので、そのことだけが原因ではないと思いますが、教員の志願倍率は下がってきており、結果として不適格な教員が出てきてしまったのではないかと感じていて、非常に危惧しています。

主役は子どもですので、子どもにより良い教育を施すために、教員の事務処理の負担を軽減するという含めて、できるだけ教員が、子どもたちに向き合う時間を周りが作ってあげることが大切だと思います。

幸い日立市では、市長、教育長の理解が深いこともあって学校事務員、図書事務員の配置などがあり、他市に比べると恵まれた環境にあります。

しかし、大学を卒業した先生の就職先としての業種を考えたときに教員が魅力的な職業としてとらえられていないのではないかということを感じています。

よい教員を確保して育てるためにも教育委員会、学校の責任ある立場の人がこれからの教育界を担う教職員の働く環境の改善を進めていくことが肝要ではないかと思います。

市

長 ありがとうございます。

教員のいじめという考えられないことがあるので、きちんとした教員を採用しなければならないと思いますし、教員への研修や指導のあり方も大きな課題だと思います。

教員のなり手が少なくなってきたことを踏まえれば、働き方を見直したり、スクールロイヤーによる支援をして、負担を減らすことも大切だと思っています。

スクールソーシャルワーカーの配置も大切だと思いますが、ご専門の朝日委員からいかがでしょうか。

朝日教育委員

大綱の中にいじめをなくし、不登校を生まないというキーワードが入っています。先生が子どもたちに向き合えるようにするとともに、スクールソーシャルワーカーとの連携した取組が必要だと思います。

市

長 不登校が生まれないように、先生と子どもたちが相互に向き合えるようにしつつ、スクールソーシャルワーカーとの連携なども取り組んでいく必要があると思います。

最近の先生方の訴えなどについて、教育長から何かありますか。

教 育

長 スクールロイヤーについては、身近な問題から込み入ったところまでご相談に乗っていただいております。

解決をしてもらうというよりは、「あ、これでいいんだ」という1つの確信を持てることが大きかったのではないかと思います。

この部分は、支援してほしいとか、この部分は学校の先生方の矜持としてやり続けていくんだとか、そういうことを私たちとしてもリスペクトしながら学校を支えていきたいと思っています。

市 長 ありがとうございます。
教育大綱の改訂に関する考え方について、いろいろとご意見はいただきましたが、皆さんから御了解をいただけたと思います。
掲げたそれぞれの項目について、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

(2) ICT機器等を活用した教育の推進について

市 長 続きまして、2つ目の議題に移ります。
今後の重点施策について、教育委員会総務課長から説明をお願いします。

教育委員会総務課長 「ICT機器等を活用した教育の推進について」説明します。
これから説明する内容は、御覧の5項目です。
1の「Society5.0」は、現在の技術革新が更に進展した約10年後の社会のことで、国の教育振興基本計画の中でも、そういった社会をけん引する人材育成の重要性を指摘しています。
その人材育成にもつながる教育にはICT機器を活用した教育や、プログラミング教育の果たす役割は、大きなものとなりますことから、2番から4番にかけて、本市の状況等を説明してまいります。
まず、Society5.0についてです。
次の世代となる新しい社会 Society5.0 は、約10年後の2030年頃に到来されると予測されております。
図にありますとおり、狩猟社会をバージョン1.0として、農耕社会、工業社会、そして現在の情報社会に続く、現在の技術革新が一層進展した次の新たな社会をバージョン5.0と位置付けたものです。
ここで、内閣府が作成した Society5.0 がどんな社会かを解説した映像がありますので、御覧ください。

〔動画〕ソサエティ5.0「すぐその未来」編<内閣府>

映像では、「少し先の社会」と言っていましたが、御覧いただいた技術は、10年後には実現することが予想されています。

現在でも、すでにICT機器は、スマートフォンの例を挙げるまでもなく生活の基盤の一つとなっており、社会に浸透しています。

そのICT機器を動かす仕組みを理解し、上手に活用することが重要であり、新学習指導要領においても、情報活用能力や学校のICT環境整備、そして、プログラミング教育が取り上げられております。

次に、ICT機器の整備状況です。

国、文部科学省の整備計画です。

国では、平成29年に新学習指導要領の実施を見据え、学校のICT環境についての整備方針を策定しています。

その中で、2022年度、令和4年度までの目標水準が示されており、学習用パソコンについては、3人に1台、プロジェクター等大型提示装置、インターネット環境、普通教室の無線LAN整備などは、100%の目標を掲げており、財源については、交付税措置がされているところです。

表の右側に全国と県の現在の整備率をお示ししていますが、インターネット環境が9割を超えている他は、目標から大きく離れていることがわかります。

日立市の整備状況です。国の目標水準と比較をしております。一番上、学習用パソコンの整備は、国の目標水準が3人に1台に対し、本市は、7.7人に1台の状況で、1学校に1クラス分を配置しております。

大型提示装置、プロジェクター等については、50%で2クラスに1台、一つ飛びまして、普通教室無線LANは、現在移動式のを配置しておりますが、35.6%の整備率となっております。

真ん中のインターネット環境と一番下の校務支援システムの整備は、100%の整備率となっております。

特に、平成30年度に本格導入した校務支援システムの整備は、県内では、早い導入となっております。

その現状を踏まえた、ICT機器等の今後の整備概要案です。「すぐ使える、いつでも使える、どこでも使える、誰でも使える」環境を目指していきます。

具体的には、図の左側にある、データセンターと学校をつなぐインターネット回線の高速化を始め、それに合わせて、図の中の囲みの中にある、老朽化したルーターの更新、図の右側にある、普通教室や体育館での無線LANの環境整備を進めます。ここまでは、通信速度の改善など快適な通信環境を整えるための整備です。

授業で使用する機器については、図の下の方になりますが、現在2クラスに1台のプロジェクターを1クラスに1台へ、その右側、児童生徒用のPCを、当面は、1台当たり3.9人の配備を目指し、近い将来には、国の整備目標を上回る1台当たり2.6人の整備を目指します。

続いて、本市のICT教育の現状です。

本市では、これまでもICTを活用した分かる授業の推進に取り組んできました。

各教科でプロジェクターを使用して視覚に訴えることで、児童

生徒の学習内容への興味関心を高め、また、タブレットPCを効果的に活用することで、様々な考えや意見の交換が充実するなどの効果があります。

さらに、来年度から本格実施されるプログラミング教育に合わせ、学校とともに準備を進めてきており、今後、プログラミング的思考の育成に取り組みます。

ここで、ICT機器の活用効果に対するアンケート結果を説明します。

このアンケートは、平成29年度にICT機器の先行導入として、諏訪小学校に電子黒板機能付きのプロジェクターを導入した際に、6年生42人を対象に実施したものです。

御覧のとおり、授業に参加する気持ちが高まった、授業内容が分かりやすく、理解しやすくなったなど、ICT機器の使用に肯定的な意見が9割以上を占めています。

同じく、教職員14人に対するアンケートでも、御覧のとおり、ICT機器の使用に肯定的な意見が多くありました。

特に、1番「児童の授業への意欲や学習内容への興味・関心が高まった」、2番「分かりやすく理解しやすい授業づくりに役立った」については、「よくはてはまる」との回答が多くありました。

また、4番「ICT機器が拡充されると児童の学力向上や授業の教育的効果の向上が期待できる」についても、全教職員が「あてはまる」と回答しております。

ただ今、見ていただいた質問以外も含めたアンケートの結果分析です。

ICT機器を活用することにより、児童にとっては、1番、授業に参加する気持ちや、学習内容への興味・関心などが向上することにより、学習意欲や理解力が向上し、2番、映像により重要な部分を示すことで、強く記憶に残るといった効果がわかりました。

また、教職員にとっては、5番、言葉での説明が難しいところの説明補助となる、6番、授業準備にかかる時間が短縮するなどといった効果が見えてきました。

次にプログラミング教育についてです。

冒頭にSociety5.0について、説明をいたしました。社会の在り方が劇的に変化することが言われており、その社会の担い手となるためには、身近な問題の解決に主体的に取り組む態度やコンピュータを上手に活用してより良い社会を築いていこうとする力が求められます。

その力を、プログラミング教育を通して、プログラミング的思考を身に付けることにより、未来の社会で活躍できる人材育成を目指すものです。

こちらは、プログラミング教育の例をお示ししたものです。小学6年の理科で「電気の利用」という単元があります。そこで、電気の性質や働きを利用した道具が条件を変えることにより、動作が変化することを学びます。

右に移りまして、自分が考えるように動かすためには、どのように条件を組み合わせたらいいのかを論理的に考えるところが、プログラミング的思考となります。

その論理的に考える力を身に付けることで、問題発見・解決能力等の学習の基礎となる資質・能力を育成いたします。

この一連の流れが、プログラミング教育の例となります。

抽象的でなかなかイメージしづらいことから、6年理科で取り上げる「電気の利用」を例に、実際に使用する教材を用いて説明いたします。

説明は、教育研究所の小池所長が行います。

(ロボット教材によるプログラミング教育の実演)

ありがとうございました。

プログラミング教育は、来年度から小学校で必修化され、中学校では、令和3年度からその内容が充実されます。

小学校におけるカリキュラム案の一例をお示ししています。

一番の年少となる小学1年生では、はみがきの仕方を例にして、日常生活における行動を「分解」してみることで、普段から「順序」に注意していることを学びます。具体的には、歯ブラシを濡らす、歯磨き粉を付ける、歯を磨くなど、歯磨きをする際に、順序立てて行動していることを子どもたちに意識させます。

次に、中学校におけるカリキュラム案の一例です。

中学1年生では、総合的な学習の時間に「日立市の未来を考えよう」という単元で、プログラミング教育を取り入れた授業を行います。

なお、総合的な学習とは、実生活の中から、課題を見付け、情報を集めて、整理・分析し、まとめて表現する学習のことです。

日立市がより良い街になるために、ドローンなどの先端技術を用いて、どのような方策が有効であるかを論理的に考え、整理・分析して、未来の日立市について自分の考えを発表します。

このように、小学1年から中学3年まで、表には記載されていない教科も含めて、プログラミング的思考を育む授業が展開されます。

なお、表の下の米印にありますとおり、プログラミング教育は、新たな教科としてではなく、既存の教科の中で実施されるものです。

次に、プログラミング教育に関する日立市の取組状況です。

平成30年度からモデル校を指定し、授業の質を高める研究や、教科の学びを深める研究に取り組んできました。

今年度、令和元年度は、上から3つ目の丸、プログラミング教育の中核教員の養成に取り組み、研究・貸出用教材の購入もいたしました。貸出用教材を使用して、各小学校で、授業実践にも取り組んでおります。

一番下の丸、カリキュラムと授業実践例については、現在作成を進めているところで、共に年度内に完成いたします。

さらに、令和2年度は、配布用教材の購入、また、中学校でのプログラミング教育の充実に備えた取組を進めていく予定です。

県内他市の取組状況です。

県内では、つくば市が先行しており、今年度からカリキュラムに基づいて授業が行われています。日立市の取組状況は、古河市に次ぐものですが、今年度の取組を完了すると、古河市と肩を並べる状況となります。

まとめです。

子どもたちが大人になるころの社会、Society5.0の社会を見据え、論理的に考える力で問題を解決する力、「プログラミング的思考」を養います。

さらに、ICTを活用した授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現していきます。

これらに加え、本日は、ICT機器等を活用した教育の推進を議題としていることから、触れておりませんが、教育の目標である知・徳・体のバランスのとれた人材を育成することは、大前提となります。

豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うという教育の目標を忘れることなく、これからの時代の担い手と育てる「未来を拓く人づくり」を目指していきます。

以上でございます。

市長 ありがとうございます。

10年後の世界が、内閣府の映像のようになることを見据えながら、子どもたちを育てていく必要があります。

また、小池所長の指導によりプログラミング教育を体験して、私たちが学んできた時代とは、授業の内容が大きく変わっていることも理解することができました。

いずれにいたしましても、情報技術が、今後、ますます進展していく中で、これからの時代にしっかりと対応できる子どもたちを育てていくことが何よりも重要であります。

それでは、ICT教育の推進について、皆様方の御意見やお考えをお聞かせ願います。

上村委員いかがでしょうか。

上村教育委員 児童生徒のスマートフォンの学校への持込を認める時期がやがて来ると思います。ICT教育のための機器を整備する際には、そういった点も考慮したほうが良いと思います。

市長 ありがとうございました。
朝日委員いかがでしょうか。

朝日教育委員 私からは感想とお願いがあります。
ICT教育に関連して不登校問題も取り入れていただけたらと思っています。
不登校になってしまったからの学びの支援にICTを取り入れて活用していただけると、不登校そのものの改善にはつながらないかもしれませんが、子どもの学びの保障になると思うので、御検討いただけたらと思います。

指導課長 ICTを活用した学習支援について検討を進めていますが、学習機会の確保とともに、コミュニケーション能力の育成にも配慮しなければならないと考えております。

市長 中村委員いかがでしょうか。

中村教育委員 プログラミング教育は、新学習指導要領に基づいて各学年の各教科で実施するようですが、今、実演していただいた内容を見れば、子どもたちが興味を持って取組んでくれる内容だと思いましたので、学習効果も非常に高いのではないかと思います。
ICT機器の整備については、できればクラスに1台整備していただいて、プロジェクターをパソコンと繋いで使えば、子どもたちが自分の考えをうまく伝えることができ、論理的思考能力を育てることができるのではないかと思います。

学校施設課長 現在、学校施設課では安定したインターネット通信環境の整備と機器のハードの整備を進めています。プロジェクターについては、来年度中には50%整備できる見込みです。また1クラス1台という目標を達成するために現在、計画を作成しているところです。

パソコンは、子どもたちにとっても日常生活に無くてはならないものですし、スマートフォンと一緒に生まれたときから身の回りにあるものです。

それが学校に行くとなぜか少ないという印象もあると思います。近い将来教室に1人台あるという状況が求められていると考えてございますので、そういったことも念頭に置きながら進めて

いきたいと思います。

市長 石川課長から話がございましたようにICT機器を整備していくことはこれからの時代、大事なことです。遅れることのないよう、計画的に予算をつけていく必要があると思っています。

土屋委員さんから御意見がありましたらお願いします。

土屋教育委員 これからの時代においてもアナログの部分は残っていくのだとは思いますが、情報化社会においては、IT・ICTというものは避けて通れないと思います。そこで生きていく子どもたちには、子どもの段階からそういった教育を施さなければいけないと思います。

市の財源は限られているという前提はありますが、ICT環境を整備するためには、まずWi-Fi環境を整備することが基本中の基本だと思います。

それに加えてパソコン、タブレット、プロジェクターなどのハードの整備も必須になります。

これは、ダイナミックにやらないとICT教育が絵にかいた餅ということになりかねないので、苦しい予算の中ではあると思いますが、機器を導入できるよう力を入れていかなければならないと感じています。

一方で、ソフトのことを考えると指導する教員自身のスキルアップが必要だろうと思います。児童生徒にICT機器を十分に活用させるには、教員の熟練度が重要です。

ハードとソフトの整備を同時に進めて初めてICTを活用した教育が推進できるのだろうと思います。

加えて、ハードを整備していけば、学校教育以外にも保護者と学校、教育委員会を含めて、ペーパーレスかつスピーディーに双方向の連絡が可能になるということも期待できると思います。

市長 ありがとうございます。土屋委員さんからもありましたように、先生方への指導のあり方が大事になると思います。

プログラミング教育における先生方への研修を今後、どのように展開していくのかについて、小池所長から御説明いただけますか。

教育研究所長 教職員の研修についてですが、昨年度は大みか小学校において先進校として、市内の小中学校の先生を集めて研修をしております。また、今年度は塙山小学校を中心に研修を進めております。

夏休みにも希望者を対象に2回の教職員研修を実施しています。

実演で使用したロボット教材のLEGO. WeDo は、既に全小学校分の25台を購入済みで、2学期から各学校へ貸出しを開始しています。

日立市では、小学校1年生から6年生までの全ての先生を対象に研修を進めております。今後も、研修を数多く進めていきながら教員のスキルアップを図っていきたいと思っております。

市長 小池所長のお話を聞いて安心しました。これからも研修を進めて頂きたいと思えます。

そろそろお時間も近づいてまいりましたが、せっかくの機会ですので、みなさんからそのほかに何かございましたらご意見を伺えればと思えます。

吉成副市長、教育担当として何かございますか。

副市長 私も長く教育委員会の仕事をさせていただいておりましたが、いろいろな面で教育の内容などは変わっていくわけですけれども、先ほど土屋委員からダイナミックにいろいろなものに対応していただきたいというお言葉もありました。

私も市長のリーダーシップの下、日立市の子どもたちのためということで、いろいろなことを後押しさせていただいているところですが、引続き、教育委員会の支援をしていきたいと考えております。

市長 ありがとうございます。教育長いかがでしょうか。

教育長 私は、プログラミング教育を始め、ICTには苦手意識がありました。ですので、年配の先生方大丈夫かなと思っていたのですが、小池所長の力強い言葉を聞いて心強く思っているところです。

また、先ほど上村委員からお話しのあったラグビーについては、これからの日本の姿だなという思いを強くいたしました。

ICT教育と併せて、ラグビー日本代表のように試合後に選手自らロッカールームを片づけていくといったことに象徴される、深い道徳とか倫理観をバランスよく身に付けさせていくにはどうしたらよいかということ、先生方だけでなく、地域の方々や周りの方々の力が大きいと思えますのでこれからも、よろしくお願ひいたします。

市長 長時間にわたり総合教育会議に御出席・御発言いただきありがとうございます。

情報化が進む中で、子どもたちが事件に巻き込まれるということも増えてきています。

子どもたちが犯罪に巻き込まれないよう、学校ではきちんと子どもたちに情報モラルについても教えていただきたいと思います。

長時間に渡り御意見をいただきありがとうございました。

私としては、教育委員会からの御意見を踏まえながら日立市の教育力の向上に努めていきたいと思いますので、今後とも御支援をお願いします。

以上で本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

3 閉 会

教育委員会総務課長

皆様、ありがとうございました。

以上をもちまして、会議を終了します。

以 上